

再評価結果（平成17年度事業継続箇所）

担当課：中国地方整備局都市・住宅整備課
 担当室長名：山口 陽

事業名	ほんまちこはません 本町古浜線（3工区）		事業区分	街路事業	事業主体	三原市				
起終点	自：広島県三原市本町一丁目 至：広島県三原市館町二丁目			延長	0.5km					
事業概要	本町古浜線（3工区）は、本町一丁目から館町二丁目に至る延長約0.5kmの主要な幹線道路であるほか、整備済みの三原連続立体交差事業を補完する重要な路線である。本路線は、バイパスへのアクセスとして延長0.5kmの付加車線を含む3車線道路である。									
H8年度事業化	S48年度都市計画決定 （H4年度変更）		H9年度用地着手		H9年度工事着手					
全体事業費	33億円		事業進捗率	44%		供用済延長	0.0km			
計画交通量	12,000台/日									
費用便益分析結果	B/C （事業全体） 1.18 （残事業） 2.4	総費用 （残事業）/（事業全体） 14.13/28.72億円 （事業費：14.09/28.68億円） 維持管理費0.04/0.04億円	総便益 （残事業）/（事業全体） 33.96/33.96億円 （走行時間短縮便益：33.88/33.88億円） （走行費用減少便益：0.08/0.08億円） （交通事故減少便益：0億円）	基準年 平成17年						
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> 円滑なモビリティの確保（旅行速度の改善が見込まれる） 安全な生活環境の確保（歩道の設置による安全性の向上が見込まれる） 他7項目に該当 									
関係する地方公共団体等の意見	文教施設が多数存在する中、交通量が多く駅に向かうバス路線にもなっており、朝夕の渋滞時には、歩行者と自動車の錯綜がみられ道路交通に支障を来している、整備されることで交通混雑の緩和、快適な歩行空間が確保されるなど大きな効果が期待できる。									
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	事業区間に隣接し2棟の高層マンションが建設された。又、事業地に隣接し、城跡周辺整備事業が計画されている。									
事業の進捗状況、残事業の内容等	残事業は、用地補償並びに道路整備工事が残っている。									
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	他路線への積極的な予算配分により、本路線への配分が少なく進捗率が微増であるが、H19年度以降は他路線が完了するため、本路線への予算配分が多くなることが予想され、H26年度の全線供用を予定している。									
施設の構造や工法の変更等	-									
対応方針	事業継続									
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。									
事業概要図	<table border="1" style="float: left; margin-right: 20px;"> <tr><td>計画交通量</td></tr> <tr><td>12,000台/日</td></tr> <tr><td>評価箇所</td></tr> <tr><td>.....</td></tr> </table>						計画交通量	12,000台/日	評価箇所
計画交通量										
12,000台/日										
評価箇所										
.....										

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものです。